

## 心に残る諺

次代を担う若者たちに向けて、是非覚えておいてほしいと思う諺を幾つか選んでほしいとの要望が知人からありました。過去の人生を振り返り、含蓄のある言葉で若者たちには十分その意味を理解してほしいと思う以下の8つの諺を選んでみました。

### 1. 一期一会

今日会った人には二度と会うことがないかもしれないので、その出会いを大切に、誠心誠意尽くすこと。との意味に一般的には解釈されていますが、本当の意味の一期一会とは「初めて会う人だけでなく、毎日会う人や度々会う人にも、今日が最期と思い、その瞬間・瞬間を大切にすること」なのだそうです。

すなわち毎日会う家族や友人、職場の人たち、そして初めて会う人たち、すべての人に対し、今日が最期との気持ちで誠心誠意接することが、真の意味の「一期一会」だそうで、改めて奥の深い言葉だと感心しました。

### 2. 情けは人のためならず

間違った解釈として、「相手に情けをかけることは本人のためにならない」と理解している人が約半分いるそうです。勿論真の意味は、「人に対して情けをかけることは、巡り巡って自分に良い報いが帰ってくる」との意味なのですが、これを真逆に捉える人が多いことは極めて残念です。

### 3. 三つ子の魂百まで

この言葉ほど重要な意味を持つものはありません。すなわち3歳頃までの環境によって形成された性質や性格は、100歳になっても基本的には変わらないとの意味で、しつけや教育、更には情操面での影響が、生まれて約3年間でほぼ確定してしまうという考えです。（従って、幼い頃に虐待などを受けたら、一生これがトラウマになってしまうということであり、このことを社会全体で真剣に受け止めるべき極めて重要な課題と考えます）

西洋にも同じような諺があり、幼児期の脳を健全に育てることがいかに大事かを示唆しているそうです。一説によると、脳の発達に関係するニューロンの数は、1歳でピークを迎えますが、1歳までに母親から愛情深く育てられた子供に比べ、放っておかれた子供は脳新皮質の厚さが薄く、コミュニケーション能力が低いそうで、個性の要となる人格形成や言語能力も、この3年間でほぼ形成されるとのことです。

※自分の子育て時代にもこの言葉は知っていましたが、これほど重要かつ後から取り返しできないとの認識が薄かったこともあり、その反省も踏まえ、出産を控えた若い人たちに、この事実を教育する機会を作ることは、この国の将来のための最重要課題と考えます。

#### 4. 鉄は熱いうちに打て

人も精神が柔軟性に富む若い時代に、有益な教育を施さねばならないことの例えですが、「三つ子の魂百まで」が主に幼い頃の情操教育面での重要性の指摘なのに対し、一方では若い時代に、厳しく鍛えることの大切さを指摘したものです。すなわち、この二つを重ね合わせ、「愛情を持って厳しく育てる」ことが極めて重要だということなのでしょう。

#### 5. 石の上にも三年

どんなに大変でも、耐えて我慢して頑張っていれば報われる日は来る。だから3年間は今の仕事を続けなさい。必ず辞めないで良かったと思える日が来るとの意味です。過去の自分の経験でもそのことを実感しました。しかしながら最近、いわゆる「ブラック企業」と呼ばれる「タコ部屋の企業」も存在するようであり、そのような場合にはこの諺は全く当てはまらず、その判断、見極めが難しいケースも多いのでしょう。

従ってこの言葉の意味は、「どのような無理困難も、自分が心の底から成し遂げたいと思っていることであれば、少なくとも3年間はじっと我慢することが最低限必要である」と解釈すべきなのだろうと思います。(昨年のノーベル物理学賞を受賞した日本人3名はその典型的事例でしょう)

#### 6. 背中を押す

誰しも、実行すべきかどうか、悩みに悩むことがあります。そしてややもすると、腰が引けて消極的になる中、アドバイスされた一言がきっかけで吹っ切れ、実行を決断できる場合があります。

後から思うと、その一言がなければ実行できなかつたと考えられ、最終決断に当たっての貴重な一押しです。特に経験の少ない若者たちは迷うことが多く、我々経験者は彼らの決断に当たり、背中を押してあげられる存在でありたいと思う次第です。逆に若者たちの立場においては、悩んだ時には「思い切って行動する」ことが重要です。

#### 7. 足るを知る

禅問答のような言葉ですが、端的に言えば「満足することを知っている者は貧しくとも幸せであり、逆に満足することを知らない者は例え金持ちでも不幸である」との意味です。

人間は基本的に限りない欲望の持ち主であり、それであるが故に、科学技術等の進歩が図られることも事実です。しかしながら特に金銭的・物質的欲望は、ほどほどで満足することが重要であり、それらを欲深く求める結果、逆に不幸になることが多々あります。

すなわち人生の目的は「心豊かに生きる」ことなのであり、その目的を達成するために限りなく貪欲になることは重要ですが、一方で、その手段である金銭的・物質的な満足の追及は「ほどほどであるべき」ということなのでしょう。

## 8. 終わり良ければすべてよし

文字通り、何事も途中経過は色々あっても、最後が良ければそれが最高ということです。この言葉は、特に人生において考えてみるのが極めて重要かと思います。誰しもが一生苦勞のない、常に順風満帆な人生が送れば最高でしょう。しかしながら逆に考えてみて、そのような人生など果たしてあり得るのでしょうか？否、あり得ません！

ある仏教講座で聞いて印象に残った話ですが、赤ちゃんは必ず泣いて生まれてきます。それはすなわち「この世で生きることは辛いことだから」なのだそうです。私たちは自分の意志でこの世に生まれたのではなく、全員がご先祖様から選ばれ、この世に生を授かったと考えるべきでしょう。

そもそも人生とは、過去から未来に向かって続く「エンドレスの駅伝」の1区間を走ることに例えることができます。それはすなわち自己完結のマラソンとは異なり、タスキを繋ぐ「団体競技である」ということです。そして私たちの肩には、ご先祖様の血と汗と涙の染み込んだ「重いタスキ」が掛かっています。ご先祖様から受け取ったこのタスキに、自分の区間を生き抜いた努力の結果を乗せ、次世代にしっかりと手渡すことが、私たちがこの世に生を受けた理由であり、使命なのでしょう。このことを自覚したなら、例え辛く苦しくとも、前向きに一生懸命生きるしかありません。

そして人生を終える時、愛する子供や孫たちに囲まれ、「若い頃は苦勞の連続だったが、今の自分は最高の幸せ者だ」との思いを伝え、この世を去れるようお願いつつ、残りの人生ラストスパートで精一杯頑張りたいと思う次第です。

以上

15.05.16 守山裕次郎

(追記)

### “怒ると叱る の違いについて”

#### 怒る

- ・感情的に
- ・自分のために
- ・過去に焦点を当て
- ・怒りと勢いで
- ・自分の言いたいように
- ・感情に任せて
- ・相手を批判するように

#### 叱る

- ・理性的に
- ・相手のために
- ・未来を見据えて
- ・愛と勇気で
- ・相手に伝わるように
- ・試行錯誤しながら
- ・相手を認めながら